

地域コミュニティ活性化と花畑づくり

静岡県中遠県行政センター

所長 松井 侑三

1 はじめに

静岡県西部地方に位置する中東遠地域は、磐田市をはじめ14市町村から成り、約44万人の人口を有し、茶、米の生産や温室メロン、花きなどの施設園芸が盛んで、県内の農業粗生産額の3割を占める県下屈指の農業地帯です。

静岡県は74市町村すべてに花の会が組織され、総員32,000人の会員が「一家一年一木一花運動」を柱に、花と緑を慈しみながら花のコミュニティの輪を広げ、地域の特色を生かした「しずおか花景観づくり」を展開しています。しかし、最近では会員の高齢化と減少が進み、新陳代謝もなく推移しているため、自治会の参加などが期待されていますが、各市町村とも有効な手段が講じられず、花づくりによるコミュニティ活動の活性化に苦慮しています。

そのような中で、大須賀町沖之須地区では、平成8年度、地域住民の発案により休耕田をコスモ畑に活用しました。これは、従来の行政主導に替わる、新たな地域おこしの手法として注目されました。

国道150号線が通る当地区は、沿道修景効果が高く、通過者の評価も得られやすいことから、ここをモデル地区として選定し、住民運動を活用した新しい花づくり手法を、平成9年度事業で試行しましたので、その取り組みについてご紹介します。

2 花畑ができるまで

1) 事業名および事業概要

事業名：「花づくりを通じた地域活性化対策事業」



図1 静岡県中東遠地域

中東遠管内の花づくりは盛んで、地域の目玉の一つともなっていますが、2004年開催の国際園芸博覧会に向けても、花づくりに対する地域の関心を高めていく必要があります。そこで、花づくりに携わる各方面の人々との情報交換、および交流を図ることによって地域づくりの活性化を目指し、その実践モデルとして、休耕田等の利活用を併せて検討します。

2) 事業実施場所の選定と規模

管内を通過する幹線道路の一つである国道150号線沿いで、通過者の評価が得られやすい場所を選定しました。しかし、栽培条件（環境）として、海岸砂地のため排水は良好ですが、風、塩分などによる影響を受けやすいことが難点として挙げられ、克服する方法を検討しました。

規模は、一般に地域花の会の花壇では、100～200㎡程度で、春花壇、夏花壇の2回、苗定植を行っ



写真1 事業内容についての看板

ています。春はパンジー、ノースポール、ビオラなど、夏はサルビア、マリーゴールドを主体に定植しています。今回のモデル事業では、今後の大面積の緑化の参考事例となるよう、小規模で集約した花壇とは趣を変えて、スケール感を重視し、2,000㎡の休耕地を活用しました。

3) 取り組みの主体

大須賀町企画課を窓口とし、沖之須地区自治会による住民ボランティアにより、耕地・播種を行いました。また、播種後の管理も継続して住民が行うこととしました(写真1, 2)。

4) 草花の選定および播種施工

(試験施工)

砂地海岸沿岸部で、冬季の強風および塩害について、秋播き草花の播種限界および越冬状況を確認するため、平成9年12月6日、地元住民のボランティアにより、耕地・播種を実施しました。種子は既製商品であるスノーミックスフラワー「春物語ファンタジー」(10種類ミックス)を利用しました。時期的に播種適期は9~10月ですが、雪印種苗(株)、および(株)岩倉種苗店の協力を得て試験として実施することとしました。試験の中で以下の留意点が抽出され、春播き以降の参考事項としました。

- ①地表面の砂が晩秋~冬季の強風により動き、11月以降の播種では、翌春発芽する種類もあるため、播種時の鎮圧作業をしっかりやらな



写真2 地域住民参加型のボランティアによる播種施工(参加意識と自主性が地域活性化につながる)



写真3 スノーミックスフラワー「春物語ファンタジー」10種混合既製商品(12月6日播種4~6月開花)

いと定着率が落ちる(写真3, 4, 5)。敷きわらなどのマルチングや土壌浸食防止資材の施用なども検討する。

- ②砂質土壌なので排水は良好だが、反面、保水性が極端に悪いので、灌水ができるようになる必要がある。
- ③風が強いため、冬季は植物が倒伏する恐れが大きく、秋播きではあまり早播きはせず、植物体は越冬できる必要最小限の大きさで越冬させる。また、倒伏に強い草種を選ぶ。
- ④潮風により定着できない植物もあるので、品種・種類の選定は耐性のあるものを選ぶ。



写真4 写真3の試験区。鎮圧作業が不十分で、散播にもかかわらず、表土の風食により小型トラクターのわだちの跡しか定着せず条播のように見える。



写真6 春播きの満開ピーク「海岸部砂地対応指定配合」(特注商品)色とりどりの花が自然な形で大面積に咲き、花壇とは一風異なった趣がある。(3月29日播種5～8月開花)



写真5 反省を生かし、鎮圧作業を十分に丁寧に行った(事業実施)

試験施工の結果を踏まえて、海岸沿岸部砂地対応指定配合のミックスで、以下の通り実施した。

〈3月播種〉

フジナデシコ、ペチュニア、ハナビシソウ、アリッサム、ルドベキアの5種混合で、平成10年3月29日に地元住民約20名の参加により耕地・播種を実施(写真6)。

〈6月追播〉

フジナデシコ、ペチュニア、マリーゴールド、コスモス、アリッサムの5種混合で、3月同様、6月18日に耕地・播種を実施。

5) 事業実施の効果

① ボランティア活動による地域活性化

耕地・播種を住民ボランティアにより実施することで、地域内の交流が促進され、また、美しく開花したことにより、除草などの管理作業も、自治会が主体となって積極的な取り組みを続けることができました。

自分が種子を播いた花畑が成功することで、自信と誇りを持つことにつながり、地域への愛着も深まったようです。

② 地域外へのPR

地元新聞・テレビ等の媒体でとりあげられたことにより、他地域からの訪問者も増え、地元地域での活動に対する関心が高まりました。

3 市町村での取り組み

中東遠地域の市町村では、花を生かした地域おこしがみられます。ここにとりあげた大須賀町以外にも浅羽町のコスモスや竜洋町のヒマワリなどの取り組みがみられます。

特に浅羽町のコスモスを活用した地域おこしは、規模も大きく県外からの訪問客も多く見られます。

以下、参考までに平成10年度の浅羽町の事業の概要を記します。

1) 浅羽町の事業概要

① 花畑の造成(花20種類、面積1.5ha)

スノーミックスフラワーをボランティアで播種



写真7 浅羽町のスノーミックスフラワー

施工(写真7)。

- ②花畑を夏のイベントに利用
平成10年7月20日開催「ふれあい海岸祭り」
- ③コスモス播種・栽培(面積11ha)
住民参加で播種し、9月中旬～10月中旬開花(写真8)。
- ④コスモスマつり実施
平成10年9月27日(日)開催
<http://www.asaba.or.jp/asaba/cosmos98.html>
- ⑤コスモス開花期間中の物産市展開
「あさばふるさと市実行委員会」などが事前の企画時点から参画し、年間を通じたイベントを利用して、まちづくりを図っていく。

2) 地域振興効果

- ①多くの住民参加と、今後のまちづくりを目的とした人材の確保、育成が期待される。
- ②市町村内外から多くの人を呼び込み、地域で生産される農産物・地場産品のPRと消費拡大、商品開発意欲の向上が見込まれる。
- ③コスモスの開花期間中、継続して週末物産市を開催し、また、憩いの場として開放することで、住民の自由で積極的な活動が促進される。

4 課題および今後の展望

大規模面積を緑化するには、現在のところ一般的には、その施工コスト(種子代、関連資材費、労務



写真8 浅羽町の事業告知板(コスモス畑)

費、機械利用費など)が多額になります。加えて雑草等が生え荒れ地となっている場所では、さらに雑草防除等の基盤整備が必要となってきます。

ボランティアによる緑化活動は、地域内のコミュニティ活性化の一助にとどまらず、互いに工夫と協力することによって、こうしたコスト面の軽減にもつながり、緑化をより一層身近なものにできる点に、特筆に価するものがあると思われる。

地域コミュニティ活性化の手法は、花づくりだけに限らず、清掃活動や環境改善活動などもありますが、花はその活動の成果が短期間で直接目に見えることに加え、景観や育てることを楽しめる利点があり、今後の主流となっていく手法だと思われます。

今年度も中東遠地域に花畑をモデル的につくり、コミュニティ活動の活性化に役立てていきたいと考えています。

また、静岡県では2002年開催のワールドカップサッカー、2003年開催の静岡国体、2004年開催の国際園芸博覧会と、大規模イベントが予定されており、地域活性化につながる活動を今後も支援していきます。